

2010 IPC Swimming World Championships Eindhoven

<Japan Team Report>



2010/08/15~21

Pieter van den Hoogenband Swimming Stadium

2010 IPC Swimming 世界選手権大会報告書

- 1、大会名称：2010 IPC Swimming World Championships Eindhoven
- 2、大会期間：2010年8月15日（日）～21日（土） 21日はオープンウォーター
 <公式トレーニング 8月9日～14日>
 <クラス分け 8月12日～14日>
 <開会式8月14日、閉会式8月21日>
 <IPC Swimming フォーラム 8月21日>
- 3、開催地：オランダ、アイントフォーヘン
- 4、大会会場：Pieter van den Hoogenband Swimming Stadium (50m)
- 5、特記事項：今大会で1, 2位を獲得した選手が所属する国に対して、2012年ロンドンパラリンピック大会での水泳参加枠を配布する（ただし、1人に対して1枠のみ）
 2012年ロンドンパラリンピック大会での、知的障害者クラスの種目実施が決まり、それにともない今大会も男女それぞれ3種目(バタフライと個人メドレーを除く)が行なわれる
- 6、遠征期間：2010年8月11日（水）～23日（月） 13日間
- 7、日本選手団：選手20名（身体14名、知的6名）
 チームスタッフ13名（JSFD9名、知的連盟4名）
- 8、宿泊先：NH Koningshof Hotel Locht 117, Eindhoven 5504 RM, The Netherlands
- 9、選手名簿および成績

名前	性別	種目	Class	予選記録	H順位	決勝記録	F順位
木村 敬一	M	100m Breaststroke	SB11	1:17.96	1/15	1:17.96	2/8
		200m Ind. Medley	SM11	2:38.68	3/15	2:34.19	3/8
		100m Freestyle	S11	1:03.65	5/17	1:02.12	3/8
		100m Butterfly	S11	1:11.26	7/14	1:06.93	3/8
		50m Freestyle	S11	0:27.82	3/20	0:27.93	4/8
		400m Freestyle	S11	5:11.34	5/13	5:10.55	6/8
鈴木 孝幸	M	50m Breaststroke	SB3	0:49.69	1/14	0:49.87	2/8
		150m Ind. Medley	SM4	2:44.91	3/13	2:41.49	3/8
		50m Freestyle	S5	0:38.20	9/18		
		50m Backstroke	S5	0:53.38	13/13		
秋山 里奈	F	100m Backstroke	S11	1:24.11	3/12	1:20.26	2/8
		100m Breaststroke	SB11	1:45.39	8/11	1:42.27	7/8
		50m Freestyle	S11	0:34.82	7/14	0:34.51	7/8
生長奈緒美	F	50m Freestyle	S11	0:33.29	4/14	0:32.97	3/8
		400m Freestyle	S11	s-Final		5:54.61	4/8
		100m Backstroke	S11	1:32.44	5/12	1:30.46	4/8

		100m Freestyle	S11	1:18.38	7/13	1:16.39	6/8
笠本 明里	F	100m Backstroke	S13	s-Final		1:13.33	3/5
		100m Butterfly	S13	s-Final		1:22.00	5/5
		200m Ind. Medley	SM13	s-Final		2:56.04	7/7
		50m Freestyle	S13	s-Final		0:31.81	7/8
江島 大祐	M	50m Butterfly	S7	0:33.05	3/12	0:33.35	5/8
		100m Backstroke	S7	1:16.98	7/14	1:17.53	8/8
小山 恭輔	M	50m Butterfly	S6	0:33.80	5/15	0:33.24	5/8
		400m Freestyle	S6	5:49.64	7/14	5:48.58	7/8
		50m Freestyle	S6	0:33.50	7/16	0:33.69	8/8
		200m Ind. Medley	SM6	3:27.01	9/14		
		100m Freestyle	S6	1:20.16	13/16		
竹内すが子	F	50m Freestyle	S5	0:41.31	5/15	0:41.07	5/8
		100m Freestyle	S5	1:34.19	5/15	1:35.18	6/8
		50m Backstroke	S5	0:56.44	10/16		
山田 拓朗	M	100m Freestyle	S9	0:59.47	8/15	0:57.94	6/8
		50m Freestyle	S9	0:27.00	7/8	0:26.59	6/8
		200m Ind. Medley	SM9	2:26.10	8/15	2:30.24	8/8
		400m Freestyle	S9	4:39.34	11/12		
野村 真波	F	100m Butterfly	S8	1:19.80	6/9	1:20.87	6/8
		200m Ind. Medley	SM8	3:03.36	7/14	3:03.87	7/8
		100m Breaststroke	SB8	1:29.35	8/13	1:30.07	8/8
奈良恵里加	F	50m Freestyle	S6	0:38.98	5/15	0:38.18	6/8
		100m Freestyle	S6	1:26.56	7/15	1:24.65	8/8
石浦 智美	F	100m Backstroke	S11	1:35.17	9/12	1:33.61	6/8
		400m Freestyle	S11	s-Final		6:42.77	8/8
		100m Freestyle	S11	1:27.73	12/13		
		50m Freestyle	S11	0:36.25	9/14		
木村 潤平	M	100m Breaststroke	SB6	1:35.16	8/13	1:34.71	8/8
		200m Ind. Medley	SM7	2:54.55	7/13	2:56.23	8/8
		50m Butterfly	S7	0:35.50	10/12		
佐藤 秦陽	M	100m Butterfly	S9	1:08.28	14/15		
佐藤・山田・江島・小山		34P Relay		4:32.55	8/10	4:36.13	6/8
江島、木村、佐藤、山田		34P Medley relay		5:04.36	11/14		
長尾 智之	M	100m Backstroke	S14	1:02.78	1/26	1:03.04	1/8

田中 康大	M	100m Breaststroke	SB14	1:12.35	3/26	1:11.71	3/8
宮崎 哲	M	200m Freestyle	S14	2:07.80	6/32	2:07.45	6/8
首藤 隆志	M	200m Freestyle	S14	2:07.89	7/32	2:07.68	7/8
瀧山三智子	F	200m Freestyle	S14	2:36.27	11/26		
賀知 笑理	F	200m Freestyle	S14	2:39.64	14/26		

身障 銀 3 個 銅 6 個 知的 金 1 個 銅 1 個

団長兼監督：滝元 良一

参加国・地域 55、参加人員約 700 人がオランダに集結し、ロンドンパラリンピックに向けて 6 日間の（オープンウォーターを除く）競技が行われました。世界記録が 69 個樹立され、レベルの高いメダル争いが繰り広げられました。特に目立ったのは、ウクライナで視力障害から重度肢体障害選手まで幅広く、大選手団で来ていました。中国は新しく若い選手が多く来ていました。イギリス、アメリカ、ロシアも上位を占めていました。

1) 選手の選考について

今回、身体障害者水泳連盟は標準記録を世界ランキング 6 位または、北京パラリンピック 6 位の早いタイムを標準とし、エントリー締め切りが早かったため MQS の基準となる公認大会として 3 月の静岡記録会後に成績上位から選考した。後に辞退者が出たため、補欠選手を追加した 14 人を決定した。しかし、選考と言いながら、トップシーズンのため、選手には多額の自己負担金をお願いした。

2) 成績と評価

身障選手の成績は 2 位が 3 人、3 位が 4 人 6 種目、4 位 3 種目、5 位 4 種目で、個人種目では 13 人が決勝に残り、残る 1 人もリレーメンバーで決勝に進出することができました。世界選手権では、2 大会ぶりに参加の知的障害者選手 6 人も活躍し、1 位 1 人、3 位 1 人でした。2 位以内に配分されるロンドンパラリンピック枠も身体 3（種目成立の問題ありますが）でした。日本の国別メダル獲得 11 個は 13 位（知的も含む）と大健闘でした。1 位はウクライナで 58 個、2 位アメリカ 56 個、3 位イギリス 52 個、4 位ロシア 42 個、5 位中国 36 個の順で圧倒的な強さでした。

3) コーチ体制とその内容

今回は、車いす選手が少なく入退水介助は少なかったですが、S11 選手が 4 人とタッピングが同時に 6 人必要な時もありました。JSFD9 名うち現地スタッフ 1 名、医師 1 名、動作解析スタッフ 1 名を除くと 6 名ちょうどでした。アップダウンでは、青木医師がタッピング及び、ドーピング検査の立会も引き受けていただき、また病氣、怪我の治療だけでなく、選手への気遣いや心理面の対応まで配慮いただき大変助かりました。

総務では、出村さんが水泳が初めてと思えない対応で、大会事務局から、インフォメーション、他国のコーチまで多彩な語学力と機動性でチームをサポートいただきました。

コンディショニングはトレーナー 2 名体制で行われました。動作解析にスタッフを常駐し、競技場内はインターネット通信がフリーでしたので、解析できたデータをコメント付で競技終了後、すぐに送信され、ヘッドコーチから選手に伝えるという方法が試されました。

4) 競技運営

最初はシャトルバスの台数配分や時間に問題がありましたが、徐々に改善されました。食事は昼、夜を競技会場のビュッフェと決められていたので、選手はオフの時でもプールに行くことが求められました。会場はスタンドが狭く、

場所の確保が難しく毎朝バスの時間より早く先発隊が睡眠時間を削ってタクシーで会場入りしました。

競技運営は大変問題があり、沢山の選手が棄権や失格になりました。幸い日本チームはヘッドコーチの指示のもとスタッフの連携もあり、失格はありませんでした。棄権については、招集時間遅れ、タッピング申請の遅れなど予選決勝を問わず失格していました。チームマネージャーミーティングで IPC ルール通りのスイムキャップを使用しない国が、使用を迫り、今大会は黙認となるなど、IOC 水泳の混乱も見られました。

5) まとめなど

選手は早い時期から目標を定め、この大会に照準を合わせていたため、ベスト記録で泳ぐ選手が多くメダルの獲得もあり、全体のムードは良かったと感じました。スタッフも無駄なく行動され、まとまったチームでした。しかし、ロンドンパラリンピック本番ではもっと沢山の選手が参加し、記録もかなり上げてくることが予想されます。選手のみならずには今以上のトレーニングに励まれ、ロンドンで良い成績を残されることを期待します。スタッフのみならずには、睡眠を削っての積極的で献身的な行動を感謝いたします。また、応援をいただきました、日本身体障害者水泳連盟、JPC の皆様にお礼申し上げます。

平成 22 年 5 月 7 日

「2010 IPC Swimming World Championships (Eindhoven 大会)」
派遣選手，役員等の決定について

日本身体障害者水泳連盟

標記について，平成 22 年 4 月 22 日付派遣方針に基づいて選考の結果，下記の選手，
役員を派遣することに決定いたしました。

1 選手

鈴木孝幸，江島大佑，奈良恵理加，山田拓朗，木村敬一，木村潤平，秋山里奈，
生長奈緒美，小山恭輔，石浦智美，竹内すが子，笠本明里，野村真波，佐藤泰陽
以上 14 名

2 役員

団長兼監督	滝元良一（連盟理事）
ヘッドコーチ	峰村史世
コーチ	千田しのぶ、安田真弓、岸本太一
医師	青木隆明
トレーナー	島樹，真井絵美子
通訳	出村裕子

以上 9 名

(参考)

派遣日程	平成 22 年 8 月 11 日（水）～23 日（月）	13 日間
大会日程	平成 22 年 8 月 15 日（日）～21 日（日）	
派遣場所	オランダ アイントハーヘン	